

精選模試 ポイント解説

問	答	ポイント解説
施工管理		
46	3	掘削工事により道路境界石が動くおそれのあるときは、道路境界石の控えをとり、施工後、全く同じ位置に設置する。コンクリートで道路境界石を固定する方法では、控えをとる代わりにはならない。
47	4	工事用使用電力量が50kW以上必要となる場合は、 高圧受電 で契約する。
48	2	総合施工計画書には、主要品質の作り込み方針や、主要な工事の流れに関わる制約条件(立地条件など)を 記載 する。こうした事項は、工種別施工計画書を作成する際の基本的な情報となる。
49	2	リバース工法の一次スライム処理は、 サクシヨンポンプ により行う。その際、掘削ビットを少し引き上げた位置で空転させてスライムを吸い上げる。アースドリル工法の一次スライム処理は、底ざらいバケットにより行う。
50	1	工事現場に受け入れた高力ボルトは、 密封したまま 、径別・長さ別に分類し、乾燥した場所で保管する。
51	2	吊り上げ荷重が3t以上のクレーンを設置する場合は、工事開始日の 30日前 までに、所轄の労働基準監督署長に届け出る。
52	1	組立てから解体までの期間が 60日以上 となる張出し足場・吊り足場・高さ10m以上となるそれ以外の足場(移動式足場・枠組足場など)を設置する場合は、設置の30日前までに、その計画を所轄の労働基準監督署長に届け出る。また、高さが31mを超える建築物(工場など)の解体工事をする場合は、計画の届出が必要である。
53	1	工程管理における進捗度管理は、「 進捗の現状の把握 」→「 遅れの原因の調査 」→「 余裕時間の再検討 」→「 増員などによる遅延対策の立案 」の手順で行う。
54	4	ネットワークの山積工程表における山崩しは、工期短縮ではなく、 作業量の平均化 に用いられる手法である。
55	1	トラッククレーンによる建方の取付けピース数は、1台1日あたり 30ピース～35ピース とすることが一般的である。
56	4	トータルフロートが0ならば、フリーフロートとディペンデントフロートは必ず0である。フリーフロートが0であっても、トータルフロートが0であるとは限らない。
57	1	品質管理の用語である「誤差」とは、「期待値-真の値」ではなく、「 観測値-真の値 」である。品質管理では、期待値=平均値であることが多い。
58	2	品質管理の用語である「かたより」とは、「 観測値-真の値 」ではなく、「 期待値-真の値 」である。「かたより」は、誤差の一種であり、標準偏差を求めるときに用いられる値である。
59	3	コンクリートの受入れ検査における空気量の許容差は、指定した値 ±1.5% である。